

令和3・4年度「学びの深化プロジェクト実施校」実績報告書（1年次）

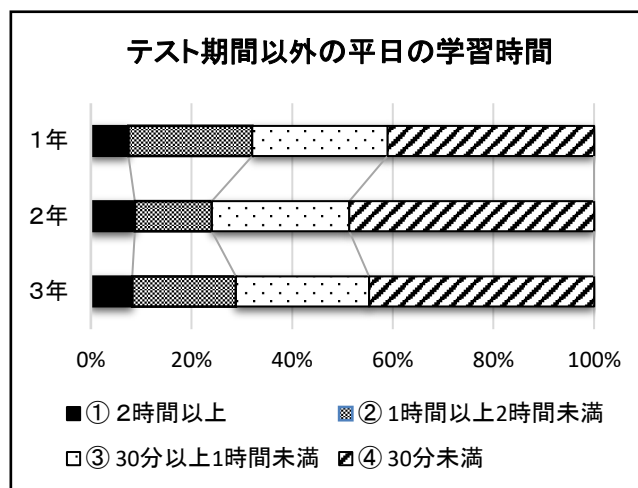
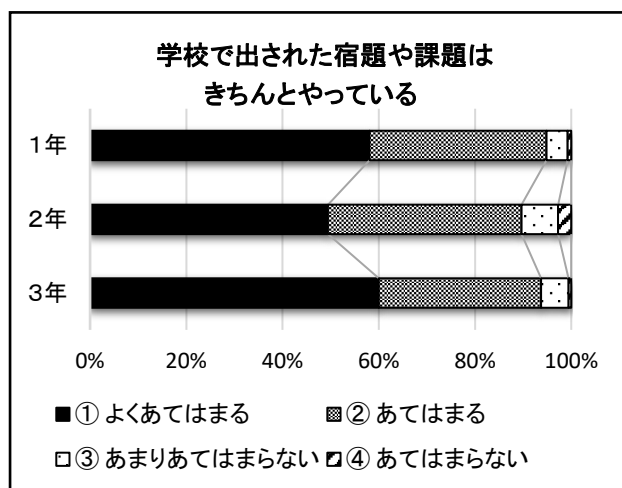
1 学校名等

学 校 名	向日市立勝山中学校							校長名	奥村 久夫	
研究教科・領域等	授業改善									
研 究 主 題	「主体的・対話的で深い学び」がある授業づくり									
研究の目的	生徒自身の学ぶ意欲を引き出す授業改善を行い、各教科の「見方・考え方」を自在に働かせることができる生徒の育成を目指すため									
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	糊枚	合 計	教職員数	
学 級 数	4	5	5				3	17	36人 ※校長・教頭を含む	
児 童 生 徒 数	143	199	191				17	550		

2 研究校の概要（児童生徒の実態、学力状況(分析)、研究体制等）

（1）生徒の実態

- ・学校全体として、一定の学習規律は確立されており、学習に前向きに取り組む生徒が多い。生徒アンケートで「学校で出された宿題や課題はきちんとやっている」という質問に対して肯定的な回答をしている生徒は9割近くいることから、与えられた課題などをまじめに取り組む生徒が多いことが分かる。

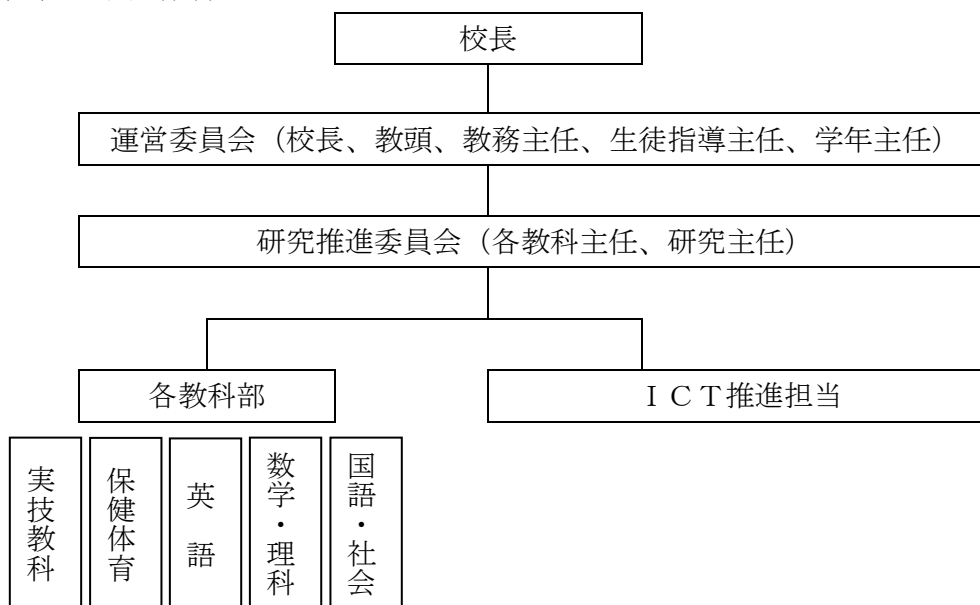


- ・各種学力テストや生徒アンケートから、テスト期間中以外の平日の学習時間が、30分に満たない生徒が4割いる。この結果は、全国や京都府の平均よりもかなり低い。
- ・教師に与えられた課題だけでなく、自ら課題を設定し、予習・復習・弱点補充などの自主勉強などに取り組む生徒は少ない。

(2) 学力状況の分析

- ・ 5月末に実施された全国学力・学習状況調査は、全体としては、国語・数学ともに、全国の平均を上回った。国語の「話すこと・書くこと」「読むこと」においては、「話し合いの話題や方向をとらえ話す内容を考える」設問や「文章に表れているものの見方や考えを捉え、自分の考えを記述する」設問での弱さがみられる。また、国語、数学ともに、記述型の設問には、答えを書かない生徒が2～3割いるのが、課題である。
- ・ 10月に第2学年を対象に実施された京都府学力診断テストは、国語・数学・英語の3教科とも、京都府の平均を上回った。質問紙の内容においては、本校の研究で取り組んでいる「めあて」の提示や「振り返り」の活動において、肯定的な回答が多く見られた。また、家庭学習の内容に関しては、校内での学習アンケートと同様に、「平日の学習時間が30分未満の生徒が3割いる」という結果で、全校の傾向と同じである。
- ・ 質問紙の結果は、校内の学習アンケートと同様に、平日の学習時間の短さと、スマートフォン等の利用時間の長さが気になる。学習形態については、グループでの話し合いや発表の仕方、課題解決への参加度等の設問には、肯定的な回答が全国の結果を上回り、授業改善の成果が出ていると考えている。

(3) 研究体制



3 主な研究活動

- (1) 第1回校内研修 5月10日
生徒のワークシートの分析による評価についてのワークショップ
- (2) 第1回授業公開 5月25日 家庭科 栗栖先生
2年6組「住居の機能と安全な住まい方」
- (3) 第2回授業公開 5月28日 社会科 島津先生
3年6組「近代の日本～「近代化」した日本において、大衆は何を求めたか？」



- (4) 教科部会 6月 3日
向日市教育委員会学校訪問指導案作成について
- (5) 全員授業公開 7月 9日 向日市教育委員会学校訪問
- (6) 第2回校内研修 8月23日
京都府総合教育センター出前講座「指導と評価の一体化について」
講師 主任研究主事兼指導主事 辻村 重子先生
- (7) 第3回校内研修 9月13日
第1回学習アンケート結果から見た研究の方向性について
- (8) 第3回授業公開10月12日 保健体育科 上村先生
2年6組男子「器械運動（跳び箱運動）」
- (9) 第4回授業公開11月15日 理科 平田先生
1年3組「音による現象」
- (10) 第5回授業公開12月 7日 英語科 塚本先生
3年6組「Lesson 6 GET Part1」
- (11) 教科部会 12月13日 2月に公開する授業の内容検討
- (12) 第4回校内研修12月24日 2月に公開する授業の主たる学習課題の検討
- (13) 第5回校内研修 1月 6日 2月に公開する指導案検討



- ・昨年度から引き続き、「良質な課題」と「適切な学習形態」を中心に研究を進めている。今年度は「国語・社会」「数学・理科」「英語」「保健体育」「実技教科」の5つのチームを作り、1チーム1つの授業公開を実施した。昨年度と同様に、公開授業の前には、チームでの授業検討会の実施、プレ授業での授業の流れなどの確認を経て、公開授業に臨んだ。授業後の事後研では、生徒の活動がより主体的になるための手立て等について考えた。

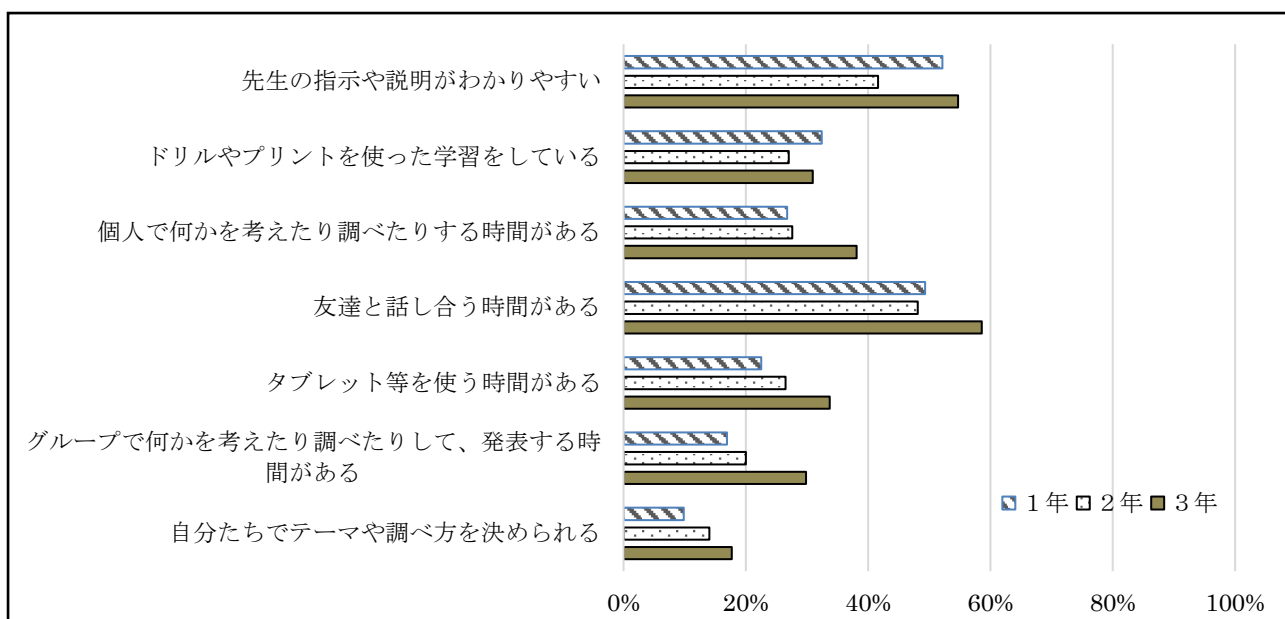
4 今年度の研究の成果と検証

(1) 教職員の変容

- ・授業構想の段階で、「学習課題」の質について、検討を重ねたことで、私たちが目指す「良質な課題」について一定の理解は定着しつつある。
- ・2学期までに、5つある研究チームにおいて、1チーム1授業の公開をすべて実施でき、チームとして授業改善に取り組む姿勢ができてきた。

(2) 生徒の変容

- ・2回のアンケート結果から、学習意欲が高まった教科や得意になった教科があると回答した生徒が4割程度いた。また、その理由として、半数ほどの生徒が「先生の指示や説明が分かりやすい」「友達と話し合う時間がある」という項目を挙げており、授業改善の成果が表れていると考えている。



5 今年度の課題

- ・校内の生徒アンケートや、全国学力・学習状況調査、京都府学力診断テストなどの結果から、平日の学習時間が少なく、学習内容において、「予習」「復習」「自主勉強」などの項目の肯定的な評価の数値が低かった。1月のアンケートでの「家庭学習として何をしたいかわからない」という質問において、「よくあてはまる」「あてはまる」の割合が、各学年4割程度おり、これが家庭学習時間の少なさの要因の一つであると思われる。授業の中で家庭学習につながるような学習方法の提示などを意識して実施することで、課題を克服していきたい。
- ・生徒アンケートの結果から「授業の終わりに、その時間の学習内容を振り返っている。」の項目結果が低かったことから、生徒自身がめあてや振り返りを自覚できていないことが分かった。そのため、「めあて」と連動した「振り返り」の設定を心がけ、授業改善に取り組んでいく。
- ・「めあて」の文言の統一や、学習活動の内容を「分析」・「考察」と呼ぶことを全教職員に浸透させることは難しかった。しかし、授業者によって提示方法は異なるが、生徒と学習課題や学習目標の共有を意識するようになってきた。生徒の学びやすさにつながる「勝山方式」の授業スタイル確立のため、校内研修会などの機会に、教職員全員で今年度の総括から来年度の目標を定めていきたい。

6 2年次の研究構想

- ・「良質な課題」と「少人数グループ」の活用を今後も継続させ、各教科の一時間の授業の中で、生徒が主体的に学習に取り組む場面、対話を通して、深い学びにつながる場面の設定を実行することで研究主題の実現を目指す。
- ・教職員全員で取り組めるポイントを整理し、生徒が学びやすい環境づくりのために、「勝山方式」の授業スタイル確立を目指す。
- ・研究の成果を発表する公開授業（11月か2月上旬の予定）を設定する。その公開に向けて全教職員で取り組むため、新たに授業づくりのチームを再編成し、チームごとに授業公開を実施しながら、教科の枠を越えた授業改善に取り組んでいく。